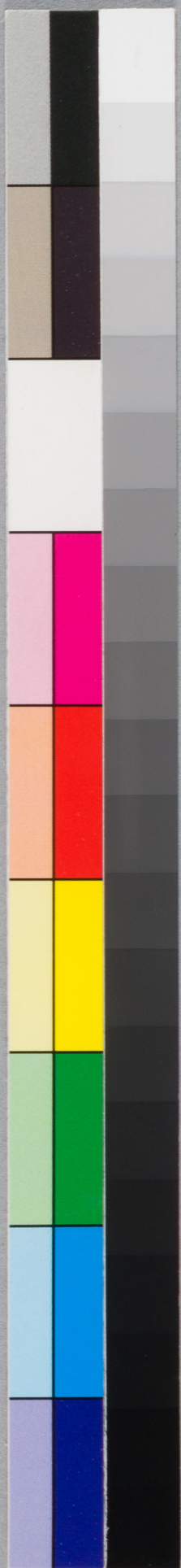
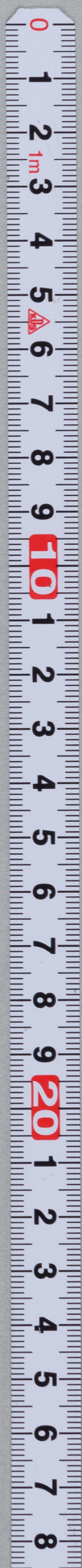
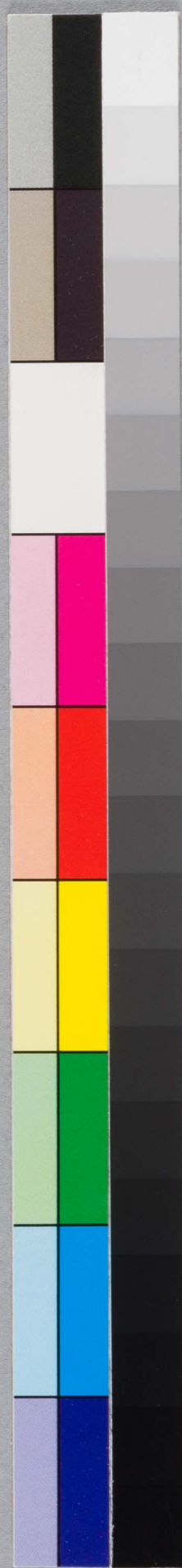


眼畫流之秘伝

元和三年写





眼書一流之秘傳

史眼五勝の秘めいこの
たか夫ふき日月の歌とく
五勝の府れききみな目り
あつてわの乃秘い史眼の
とくしとなつてらん勝ふ
とくすちの秘いきらるな
こしよりわん勝よとくち
まいあつちとなりあんれ
勝にそくすさくきと目の

とき月をうらなひてきこふ
ゆききこふひたりと

しききこふふあす也

龍腦膏 龍腦膏

石 薬 かんき石 薬

石 薬 かんき石 薬

白 薬

石 薬 かんき石 薬

太一膏

石 薬 かんき石 薬

石 薬 かんき石 薬

石 薬 かんき石 薬

石 薬 かんき石 薬

明石 二

明石 二

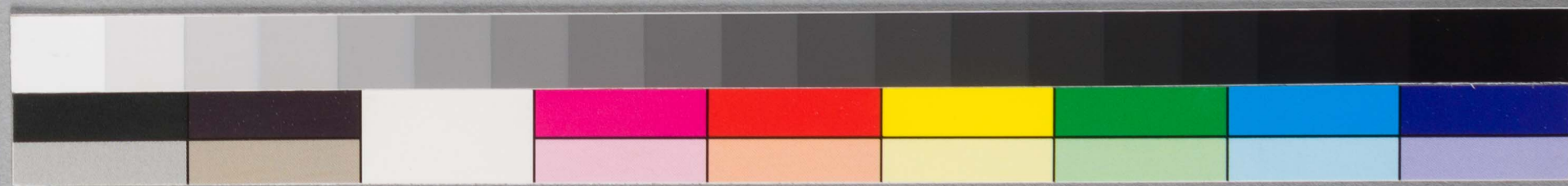
明石 二

明石 二

明石 二

明石 二

明石 二



かんきう 一乗 かんきうなるふ 少
石をさそひり妙あり

● 黒明丹 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

● 清眼散 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

● 竜腦散 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

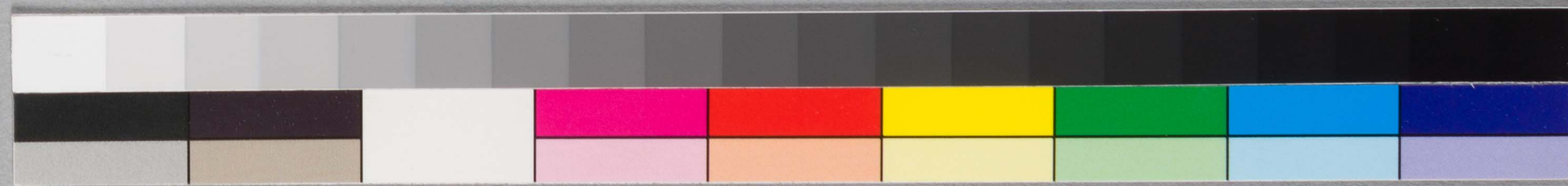
かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

● 真珠散 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少

かんきうなるふ 一乗 かんきうなるふ 少



あんきう 右より合

明教 明教 けきめふり

あきう せきめふり

きん 右より合

きん 右より合

右より合

白毫散 つきめふり

きん 右より合

きん 右より合

きん 右より合

毫石散 つきめふり

きん 右より合

きん 右より合

きん 右より合

金明散 つきめふり

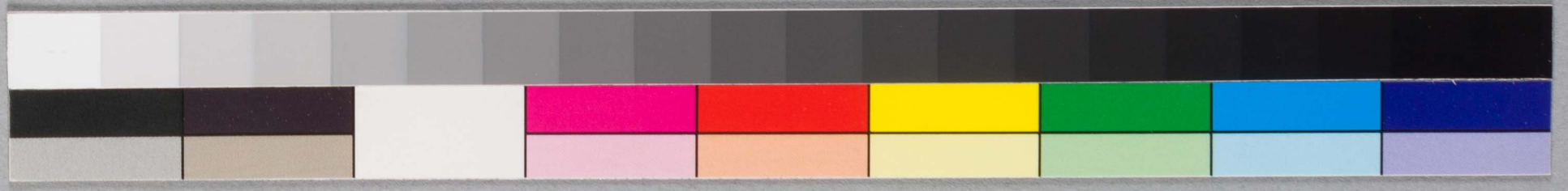
きん 右より合

きん 右より合

きん 右より合

右より合

明珠散 つきめふり



あんどろ 二合
く石 二合
ききう 二合
もくきう 二合
がく 二合
うきり合
天石散 二合
うきり合
きり石 二合
ろん石 二合
あんどろ 二合
わきき 二合
てんが 二合
ろくきり合

うきり合

あんどろ 二合
ろくきり合

あんどろ 二合
ろくきり合

目きり合

あんどろ 二合
ろくきり合

あんどろ 二合
ろくきり合

あんどろ 二合
ろくきり合

あんどろ 二合
ろくきり合

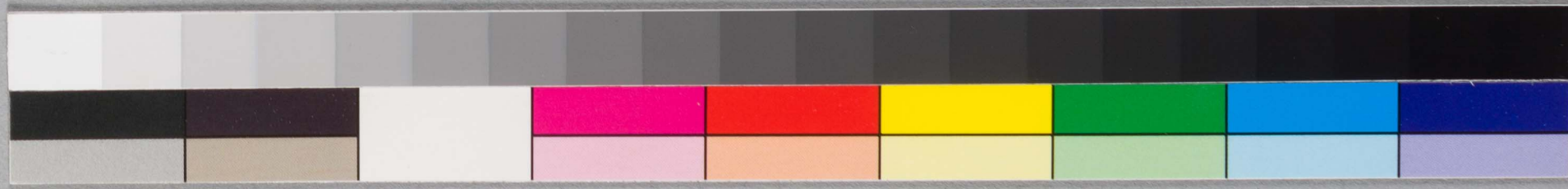
あんどろ 二合
ろくきり合

あんどろ 二合
ろくきり合

あんどろ 二合
ろくきり合

あんどろ 二合
ろくきり合

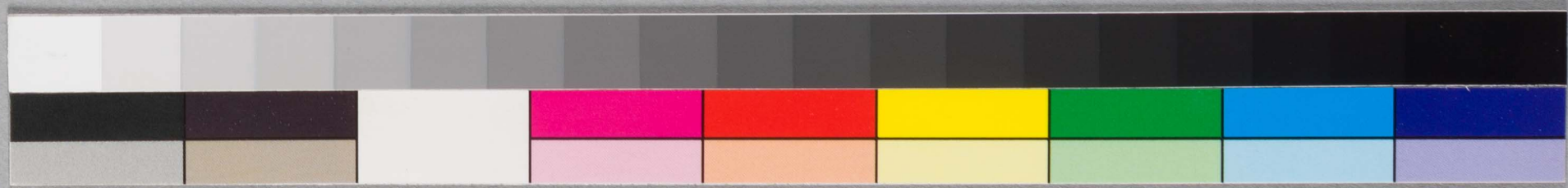
あんどろ 二合
ろくきり合



わうや 二分 金一両五分
きんぎょ 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分

わうや 二分

わうや 二分 金一両五分
きんぎょ 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分
あやう 二分 金一両五分



かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

あけらふ 妙薬

かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

風眼金 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

丹竜散 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

丹竜散 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち

かんきい石 五分 ちやうち



あんきく 少 かくん 中

ふー 二 かくん 中

石きく 中

あひ薬

ふきく 一 かんきく 二

ふきく 一 かんきく 一

かんきく 少 かんきく 中

同薬

かんきく 中 かんきく 中

かんきく 中 かんきく 中

かんきく 中 かんきく 中

かんきく 中 かんきく 中

青敬

かんきく 中

かんきく 中 かんきく 中

かんきく 中 かんきく 中

かんきく 中 かんきく 中

同薬

かんきく 中 かんきく 中

かんきく 中 かんきく 中

かんきく 中 かんきく 中



●内薬之事

きんぎょ白水は ひろきんぎょ 日

せんきょ 大いんぎょ

石等ゆい小合用

●黄内障はうないしょう いんぎょ

右乃いんぎょにいんぎょをいんぎょ
てい

●あつそいんぎょいんぎょの勝

せんきょ しゃんぎょ白水は

かんぎょ 赤小豆 ありんぎょ

右乃いんぎょ

●黒内障内薬

いんぎょ 黒いんぎょ白水

ちんぎょ 日 日 日

ういんぎょいんぎょいんぎょ

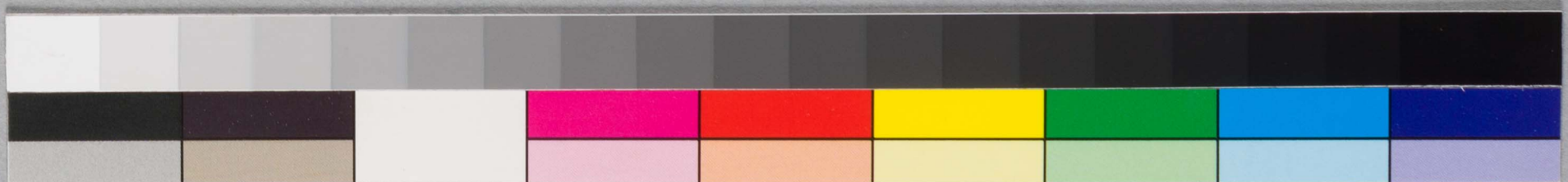
ていんぎょいんぎょいんぎょ

いんぎょいんぎょいんぎょ

●白内障内薬肝之勝

いんぎょ せんきょ

大いんぎょ せんきょ



そいつてさるる

外障之内薬うけりて

らん 分 せんきり

大さ 二分 小豆 二枚

右の かん かん かん かん

かん かん かん かん

かん かん かん かん

かん かん かん かん

かん かん かん かん

かん かん かん かん

かん かん かん かん
かん かん かん かん
かん かん かん かん
かん かん かん かん

何之血月吉

小豆 かん かん かん

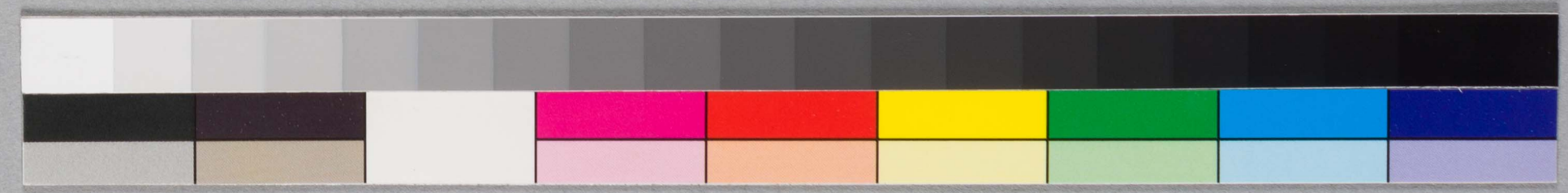
かん かん かん かん

かん かん かん かん

かん かん かん かん

中障之内薬

かん かん かん かん



かんきく 一合 ころもえ 二合

かんきく 少 花あふ令

^{わさけ}俄風^{ひざい}を引くさう

かんきく 二合 ころもえ 三合

かんきく 三合 かんきく 三合

小豆 かんきく かんきく

かんきく かんきく かんきく

かんきく かんきく かんきく

かんきく かんきく かんきく

かんきく かんきく かんきく

かんきく かんきく かんきく

かんきく かんきく

かんきく 二合 かんきく 三合

かんきく 三合 かんきく 三合

かんきく かんきく かんきく

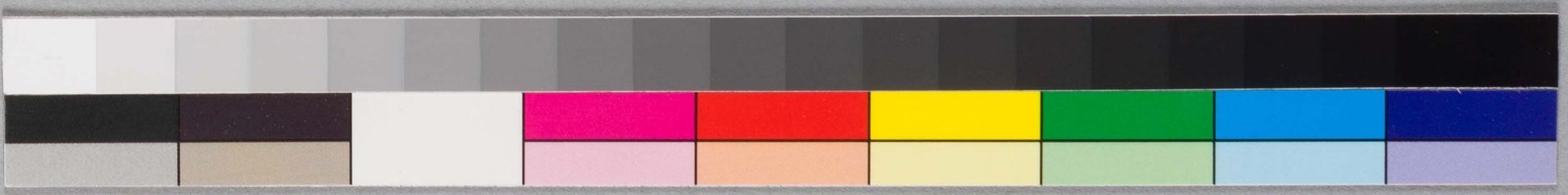
かんきく かんきく

右目かんきく かんきく

血かんきく かんきく

かんきく かんきく かんきく

かんきく かんきく



外障之内藥

三味 大 一

三味 三 二

三味 三 二

三味 一 二

小豆 一 二

黄連四物湯

三味 二 一

三味 一 二

三味 一 二

血ひきめろふ妙なり

亨黄散

これを目の下へおこす

三味 一 二

三味 一 二

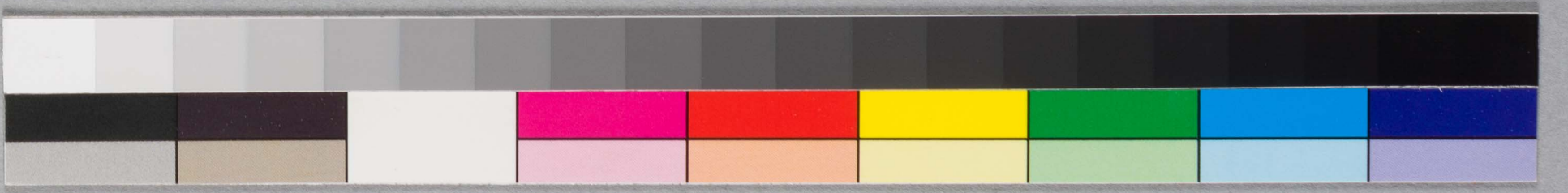
三味 一 二

三味 一 二

三味 一 二

三味 一 二

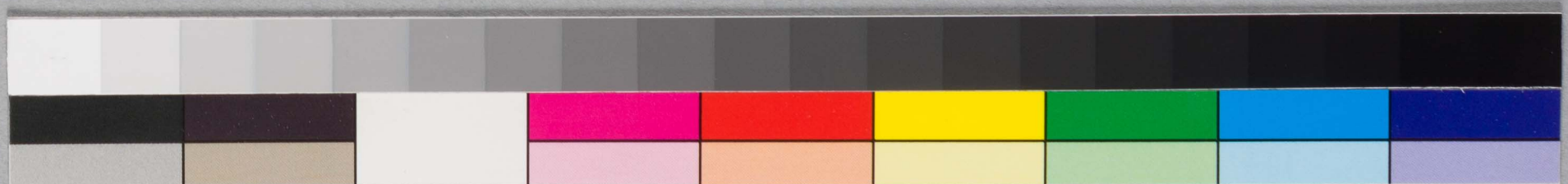
三味 一 二



せんきう 一 いんち 二
せんきう 三 石湯に用ひ
せんきうと用ひらうとあ
たゆらうなひゑの物といひ
る 風をひらぬやうに
あめめいともあたきけいゆと
さへてうきと一 石の
ぬき〇あてぬきとあて
る 一 けつとちのみとあ
る 一 せんきうなり

人參湯

ちき 二 せんきう 一
せんきう 一 せんきう 一
ちき 二 せんきう 一
せんきう 二 せんきう 一
石湯に用ひ
目めい 一 せんきう 一
せんきう 一 せんきう 一
せんきう 一 せんきう 一
せんきう 一 せんきう 一
せんきう 一 せんきう 一

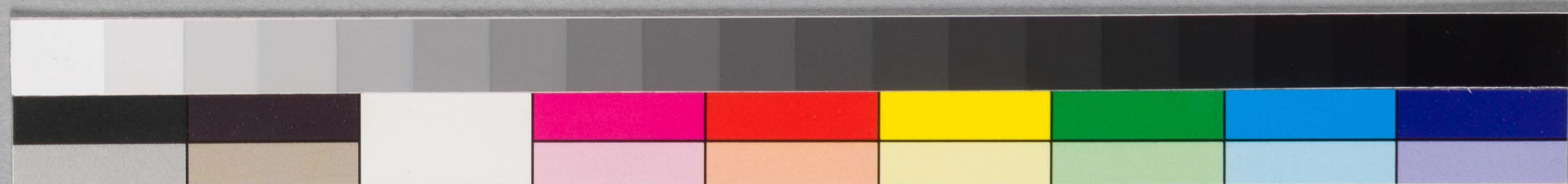


右等分ありて用る目こ
るるをいふとほてあ
る

家一代之雖為極意色々
依御執心相傳之者也

慶長九曆

南呂五目



眼裏秘傳鈔

老人^{ろうじん}虚^{きよ}人^{にん}或^{ある}是^{こゝ}病^{びやう}後^ご血^{けつ}か
もき目^めひり^{ひり}うもく^{うもく}る
事^{こと}あまう^{うまう}う^うう^うう^う虚^{きよ}也^{なり}
血^{けつ}もき^{もき}う^うう^うう^う一^{ひと}か^か病^{びやう}
者^{もの}病^{びやう}或^{ある}風^{ふう}病^{びやう}に^にあ^あさ
と^と病^{びやう}一^{ひと}く^く血^{けつ}の^のあり^{あり}目^めあ^あく
病^{びやう}一^{ひと}く^くう^うは^は血^{けつ}病^{びやう}と^と
て^て吉^{きち}風^{ふう}ふ^ふあ^あう^うり^り俄^{はた}に^にあ^あく
う^うう^うあ^あく^く一^{ひと}か^か病^{びやう}

も^もう^うや^やあ^あう^うえ^えあ^あう^う病^{びやう}
血^{けつ}病^{びやう}一^{ひと}あ^あう^うは^は血^{けつ}病^{びやう}と^と
ら^らと^とて^て目^めあ^あく^くう^うあ^あく

う^うう^うえ^えあ^あう^うこ^こあ^あう^う

う^うう^うえ^えあ^あう^うこ^こあ^あう^う

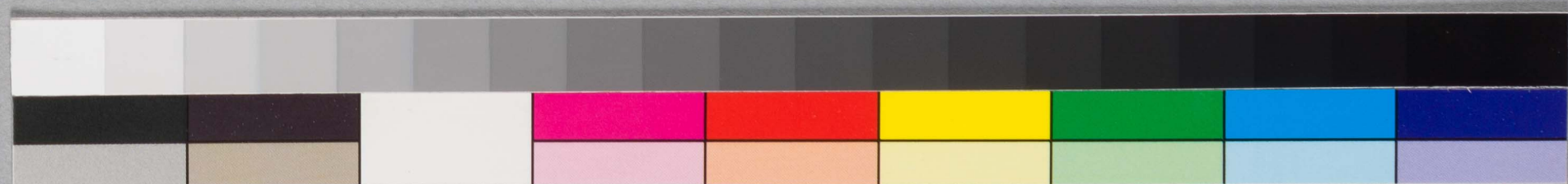
一^{ひと}か^か病^{びやう}一^{ひと}あ^あう^うは^は血^{けつ}病^{びやう}と^と

き^きあ^あう^うあ^あう^う一^{ひと}あ^あう^うは^は血^{けつ}病^{びやう}と^と

血^{けつ}病^{びやう}一^{ひと}あ^あう^うは^は血^{けつ}病^{びやう}と^と

あ^あう^うえ^えあ^あう^うこ^こあ^あう^う

あ^あう^うこ^こあ^あう^うこ^こあ^あう^う



防風 目一え けいふ

瘦人 小血水也 ちき

ちき ちき ちき

けいふ ちき

一内障 小血水也 ちき

ちき ちき ちき

かん ちき ちき

右目 用也 外障 内障

或風 或風 西眼

とふ ちき ちき

右目 用也 白芷

ちき ちき ちき

見き ちき ちき

第 けいふ ちき

右目 用也 等分 用也

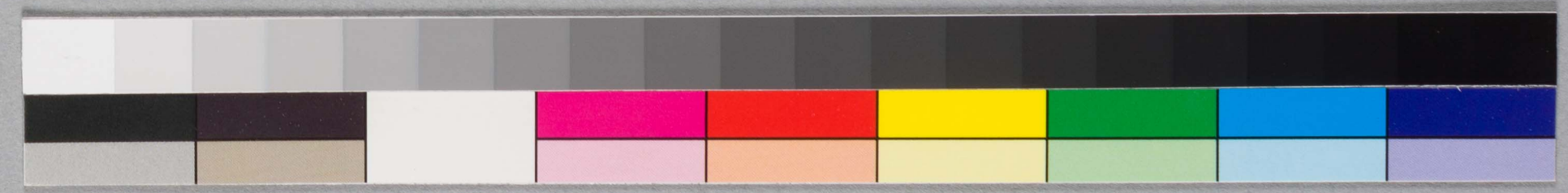
一目 或 ちき

れ ちき ちき

ちき ちき ちき

ちき ちき ちき

右目 用也



一飲食を^{しんじく}つて^{しんじく}あま^{あま}と^とく^くて^てあ^あら^らは^はし^しめ^めて^て目^め々^々を^を或^{ある}は^は内^{うち}障^{さう}を^を治^{ちやう}

ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

石^{いし}等^{どう}分^{ぶん}あ^あら^らは^はし^しめ^めて^て目^め々^々を^を或^{ある}は^は内^{うち}障^{さう}を^を治^{ちやう}

一風^{ふう}を^をひ^ひき^き目^めあ^あら^らは^はし^しめ^めて^て目^め々^々を^を或^{ある}は^は内^{うち}障^{さう}を^を治^{ちやう}

ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

石^{いし}等^{どう}分^{ぶん}あ^あら^らは^はし^しめ^めて^て目^め々^々を^を或^{ある}は^は内^{うち}障^{さう}を^を治^{ちやう}

眼^{がん}裏^り見^み様^{よう}之^の事^{こと}

病^{びやう}目^めを^をあ^あら^らは^はし^しめ^めて^て目^め々^々を^を或^{ある}は^は内^{うち}障^{さう}を^を治^{ちやう}

ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

風^{ふう}眼^{がん}を^をあ^あら^らは^はし^しめ^めて^て目^め々^々を^を或^{ある}は^は内^{うち}障^{さう}を^を治^{ちやう}

ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

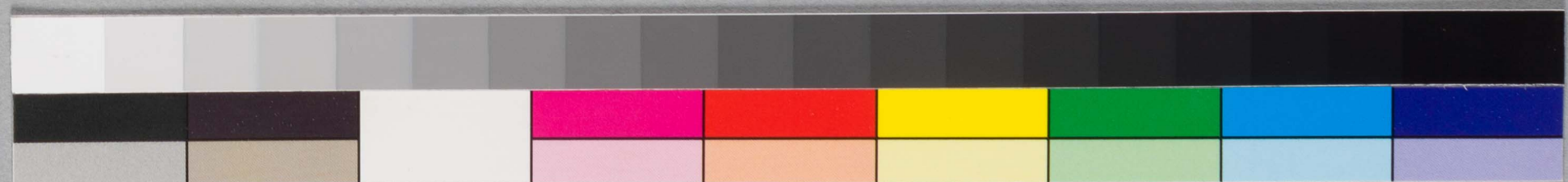
ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き ま^まる^るき^き

ひきききききき風眼と見
てりきりなりききき
眼を治す内薬洗薬
きききききき指薬小き
明星散と云ふ眼
外障を治すわけは綿と
はききききききききき
ききききききききき
ききききききききき
ききききききききき

ききききききききき
ききききききききき
障ききききききききき
膏一日ふ三度搦てききき
ききききききききき
内障を治す内薬洗薬
ききききききききき
目ききききききききき
ききききききききき
散ききききききききき



ありて一のけ業ありて内
業ありて右ふあり

白内障を腫子^{しうし}なりて小白

水とありて眼^{がん}なりて大五

金膏のけ業ありて内業

を右にありて目^めなりて

けのありて目^めなりて

なりてのありてなり

も内障を腫子^{しうし}なりて

目^めなりて黒^{くろ}なりて

黒^{くろ}なりて目^めなりて

なりて目^めなりて

にありて目^めなりて

なりて目^めなりて

なりて目^めなりて

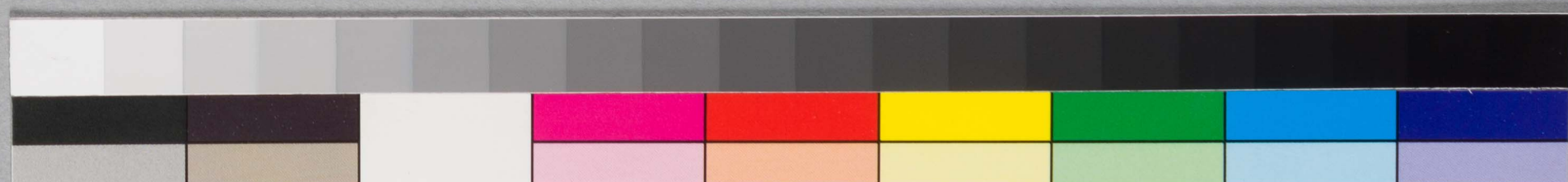
肝^{かん}胃^いなりて

黄^{わう}内障を白内障^{はくないしやう}なりて

なりて目^めなりて

なりて目^めなりて

なりて目^めなりて



竜腦二束 竜腦二束 明礬二束

竜腦二束 竜腦二束 明礬二束

竜腦二束 竜腦二束 明礬二束

真珠膏 惣藥

白濁二束 白濁二束 石二束

白濁二束 白濁二束 石二束

天華散 乃目二束

天華散 乃目二束

天華散 乃目二束

銅青散 乃目二束

竜腦二束 竜腦二束 明礬二束

竜腦二束 竜腦二束 明礬二束

竜腦二束 竜腦二束 明礬二束

烏目乃藥之事

烏目乃藥之事

烏目乃藥之事

洗藥 乃目二束

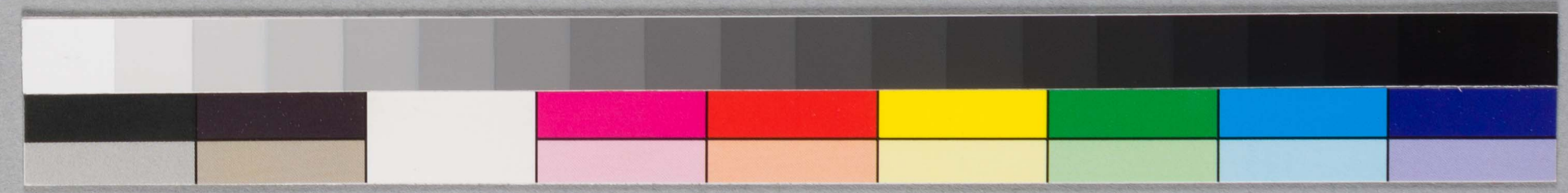
洗藥 乃目二束

洗藥 乃目二束

洗藥 乃目二束

明礬 目乃内めうちの油あぶらを
こひとされがまゆる薬也
けふ入火のこゑに水を入れて
にきつゆり焼つゝなり
真珠 外障げしやうふ若目の因よす
あつす目乃をこすつゝも
溜いづとほとほす也なりけふ
そわそわとれうゑに焼いてふ
ぬゑうりて焼いちをむ
焼い令い焼いる句くてなりを

明石 うち目めはき目めをす目めをみ
目めをふ若目乃内めうちの油あぶらを
ゆづの粉こななりされふるなり
ほちと焼いてすすなり
みてこゝとをこす
とやとやとやとや
滑石 外障げしやうふ若血乃道みちなり
あつす目の因よなり
小若の油あぶらなり
白毫 外障げしやうふ若血乃道みちなり



あきりくちよやすめ乃代小
若いのころれ二三年とる露
ふくくくくく水とあひ口に
叩てこきげれとすうもいふ
てふあつてれつかふなり

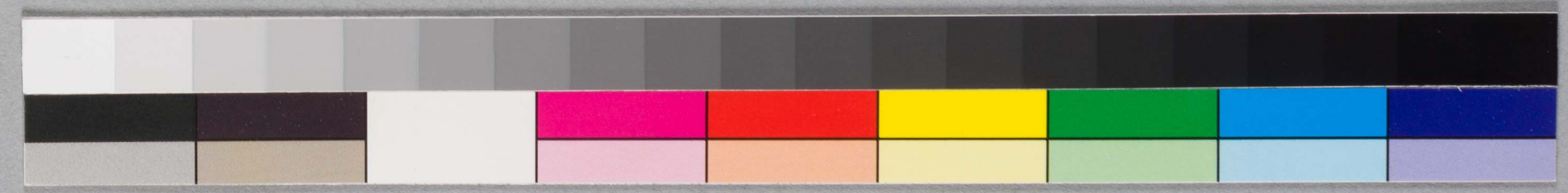
蛇骨 星外障小若くうもえ
いふもあつてくもあつて

角石 星外障小若く血汗もえ
すきりくちよいやす麻乃ほの白
とあにれく三つを嫌すいひは偽
あり

塩硝 効業也志む業也偽と云
ふき目ふ若目もく内障れ
いふもあつてれとく若くあつて
あつてはれき水とくくくくく
くく三度むりふり白くあつ
時効くもあつて

光明丹 効業也志む業也偽と云
とああああああああああ
ひくもあつてあつてあつて

竜腦 効業也志む業也偽と云

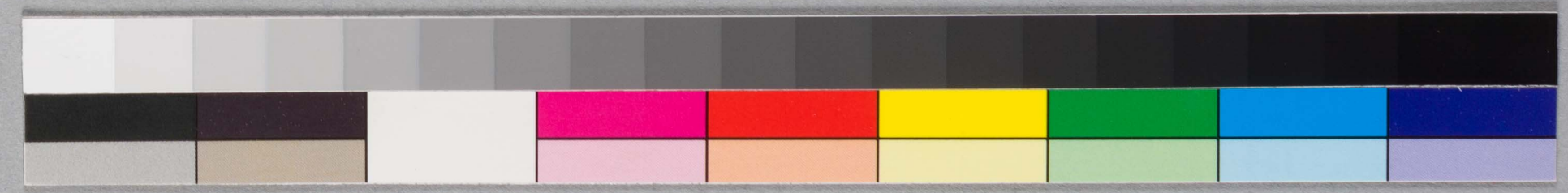


肉のいゝと云ふは内障ないしやうは若外障
 小をいひてと云ふは黒眼くろがんの
 血を去はらふと云ふは眼を
 小ぬる者ものと云ふは眼を
 此の葉は入ると云ふは若
 麝香じやくかう 熟葉じやくは也肉の痛いたむと云
 事こと中ちゆう一也内障ないしやうは若外障
 若くは外障がいしやうと云ふは眼を
 赤石脂せきしじ かつを若外障がいしやうと云ふ
 の目め小若くは眼を入いれて一敷しき敷しき

其心一々を盡くす事なり
 其心一々を盡くす事なり

熟葉也三月乃時ふそぐちのなま
こまうらうらや院^{えん}終^{はら}ふそ
たき屋^やうそくそつぬて
日ふやうそめてうらねまう
そまうらうら^{おら}留^{とど}ま^まうら
辰砂^{えんさ} 熟葉^{じやくちやく}と云ふやう也腫^はる
きう葉^え也うらうら^つ破^{やぶ}れまひ
そくそまうそくそ^あうらうら
黃丹^{わうたん} 熟葉^{じやくちやく}也^は好^{この}し^しらう
源^{げん}と^とし^し葉^えうら^うあを^を外障^{がいしやう}

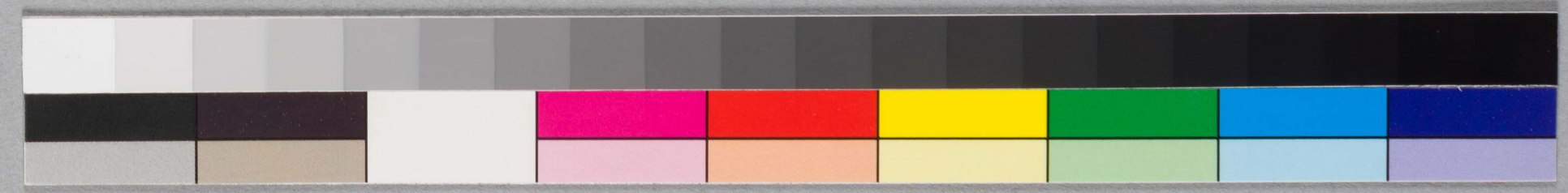
中障^{ちゆうしやう}ふ^ふ若^わま^まひ^ひく^く也
生腦^{せいなん} 留^{りう}ま^まう^うそ^そま^まう^うら^うし
ひ^ひま^まう^うら^うそ^そま^まう^うら^うし
口^く傳^{でん}わ^わり
蒼^{そう}若^わ石^{せき} 熟葉^{じやくちやく}也^は外障^{がいしやう}腫^はる^る若^わ
あ^あま^まう^うら^うし^し目^めふ^ふ若^わま^まう^うら^うし^し破^{やぶ}
焼^やく^く葉^え連^{れん}乃^のあ^あう^うら^うは^はひ^ひう^うて
目^めは^はや^やう^うら^うし^しに^にあ^あう^うら^うし^し
虎^こ胆^{たん} 目^めと^とう^うら^うし^しあ^あう^うら^うし^しげ^げん
し^しく^く葉^えも^もう^うら^うし^し若^わま^まう^うら^うし^しは^はひ^ひう^うて



乳とろは青黒赤くくわさるる
若生竹とたてくわうりふあを
りまの竹のるま二天をうあけ
まほとの虎腰たれを竹のまふ
ふ蛇とゆふ也くまのこくはな
らむ小脇物あり
虎肉 二竹ふくくく可目くく入
てりくくあふくく若生竹のまふ
とありあつてふくまふくく
てりくくあふくくくくくくく

黄とろり白赤くく青黒赤くく
あつてふくくくくくくく
目くくくくくくくくくく
ろくく外障内障のすく葉ふ
くくゆふ也

青石 ころはくくくくくく
血目ふ若むあけく二あけく
指二文茶碗折入をふ指三十
日くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく



[illegible]

此乃正統年一

とうていこれより外
 障腫をうすくす
 とう
 とう
 とう

掘石　うゝいゝとさうてさあやう
おろし　破らさき世中障外障
とりこひりよる者たちの也

白石脂 ちりし
 ちり やう の 袋角 つ と 破 や 爛 らん
 ちり ちり を 叩 たた け ば ちり ちり は 若 わか

集麟石 目乃之之玄目乃
 之目之若きり之をいふ血

五調^{ごてう}の華也^{はな}といふて今也

天石 人乃志を以ての事さ
留るふたれ多きを二日破焼く
あり碑もまゐひく目小布

かへりもくもくふのさるを
こひこめ^{ごん}てくらけよて
一目れ焼これ外障腫の
きぬふ若うつきまむ也
^{もうえ}
白粉　もうやのゆのみをもい
外障ありともかくふ若目の内



小の如くもいふるにふ

丹礬 そのまゝといふもよし

此をいふて外障をいふ

まゝといふては二つありまゝ也

葛根 水にたてゝい

ふき目ふき目といふ目といふ

らるるなり

蓬砂 水にたてゝい

すゝ火にうゑるはいふなり

のゝゝいふなり

石 水にたてゝい

しるしなり

貝石 水にたてゝい

たき也外障をいふなり

貝歯 水にたてゝい

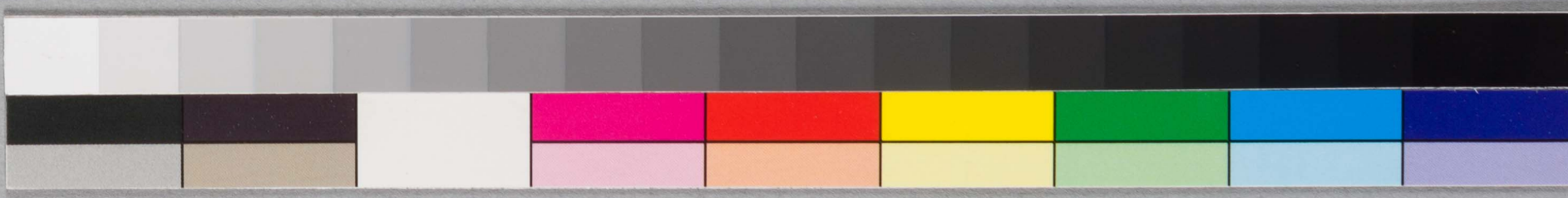
うらぐをいふなり

竜骨 水にたてゝい

古目と云ふなり

熊膽 水にたてゝい

一 水にたてゝい



か
ら
ち
き

廿二

虎骨

۱۲۱

ひんそ

牛黄

二

出音

三

黒煉

沉香

月小

4

大綱

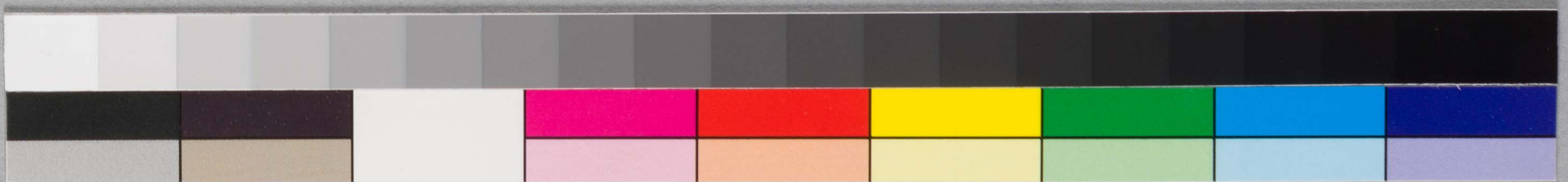
やう

٤٥

加減一

文錄

大呂人



此三卷鈔者雖為唯授一人極
意依種々御懇望悉令授ふ
畢。卿以不可他見者也

肖元和第三曆

猷春下旬七日

滿安義原代集英園

十指瑞福十日瑄

三祥天人君德始

攝情比貴妃猶露

冬食之於偏而安羅起未寸旬幾
天仁淳連君

阿羅志無加姿能可多身

毫見尔

血月之内藥

ちりき中

大目小

さき中

ちりき大

ちりき中

けい大

ちりき大

右薬——用全

風眼之内藥

ちりき中

ちりき大

ちりき中

けい大

ちりき大

さき中

ちりき中

右薬——用全

疾目之内藥

ちりき大

ちりき中

ちりき小

大目小

小豆中

けい大

右薬——用全

目内藥

ちりき中

ちりき大

ちりき中

ちりき大

ちりき中

人目

ちりき大

右のちりき中

ちりき中

ちりき大

ちりき中

ちりき中

同前之内藥

ちりき大

ちりき中

ちりき中

ちりき大

ちりき中

ちりき中

付目之内藥

ちりき中

ゆき目のあひまよりなるま
るくしん ころむく ころしん
右等ふ小舎よりいりてあふる

同あひまよりなるま

ころむく ころしん ころしん
右等ふ小舎よりいりてあふる

竜脰膏

竜脰膏 寒水石より石膏より
白石脂より結胃よりニ香より
生脰少

右等ふ小舎よりいりてあふる

金明香

金明香 金明香よりいりてあふる
ころむく ころしん ころしん
右等ふ小舎よりいりてあふる

右等ふ小舎よりいりてあふる
馬のいりあひまよりいりてあふる
白梅膏

白梅膏 白梅膏よりいりてあふる
ころむく ころしん ころしん
右等ふ小舎よりいりてあふる
合ちる水よりいりてあふる

20/1161

